

東濃信用金庫では1986年度より美濃陶芸作品永年保存事業を行っています。地元的美濃陶芸作家から永年保存するにふさわしい優秀な作品を毎年買い上げ、作陶への奨励および美濃陶芸の発展を意図し、地域文化の高揚と美濃焼産業界の技術振興に寄与することを目的としています。本年度で37回目となります。



美濃陶芸作品永年保存事業

とうしん美濃陶芸 とうしん美濃陶芸 とうしん美濃陶芸
美術館上席学芸員 與語小津恵

ミュージアムに寄贈していましたが、20回以降の作品はいつか美術館をという思いから、東濃信用金庫本店や各支店で紹介していました。そして2015年5月、多治見市虎溪山町に美術館を開館し、展示しています。毎年、年度末になると選定作品を決めるため委員会を開きます。歴代の推進委員は、加藤卓男先生、荒川武夫先生、中島正雄先生、安藤光一先生、伊藤慶二先生、七代加藤幸兵衛先生ら美濃を代表する陶芸家です。

現在、加藤孝造先生、林正太郎先生、林恭助先生、安藤工先生、国立工芸館・唐澤昌宏館長、とうしん美濃陶芸美術館・金子賢治館長、東濃信用金庫・市原好二会長の7人で会議を開き、選定作品を決定しています。

若手作家から人間国宝まで幅広い選定作品は、当館の所蔵品の中心です。来年1月6日から4月2日まで「とうしんコレクションⅣ」所蔵品で見る美濃陶芸の世界を開催します。大きな大王松を囲むように建てられた円形の建物の特徴の美術館で、美濃陶芸作家の茶器も並んでいます。ぜひ、来館ください。